

会議名	第1回厚木市観光振興推進委員会
日時	令和4年9月16日（金）14時から15時05分まで
場所	あつぎ市民交流プラザ6階 ルーム602
出席者	出席者 11人 厚木市観光振興推進委員会委員6人 オブザーバー1人（一般社団法人厚木市観光協会専務理事兼事務局長） 事務局4人（産業振興部長、観光振興課長、観光振興係長、観光振興課副主幹）

会議の経過は次のとおり。

- 1 開会 観光振興課長
挨拶 産業振興部長
※委員自己紹介、事務局紹介
- 2 案件
 - (1) 委員長の選出について
委員長を選出。
 - (2) 厚木市観光振興推進委員スケジュールについて 議事進行：委員長 説明：事務局
資料2に基づき説明。
【意見等】
特になし。
 - (3) 厚木市観光振興条例について 議事進行：委員長 説明：事務局
資料3、4に基づき説明。
昨年度、条例の見直しの必要性について、書面会議にて審議し見直しの必要性がないと判断した。
資料4のとおり厚木市長に対し条例の評価等について、通知したので報告します。
【意見等】
特になし。
 - (4) 厚木市観光振興条例運用状況について 議事進行：委員長 説明：事務局
資料5に基づき説明。
【意見等】
特になし。
 - (5) 令和3年度事業の実施状況について 議事進行：委員長 説明：事務局
資料6に基づき説明。
【意見等】
委員：外国人向けの事業が令和4年度に実施しないことになっているが、コロナ禍が落ち着き、観光旅行が盛んになってきた場合は再開するのか。

事務局：外国人観光客の受け入れが戻れば、復活も考えている。

(6) 令和4年度観光振興に係る関連事業について 議事進行：委員長 説明：事務局
資料7に基づき説明。

【意見等】

特になし。

(7) 令和5年度事業について 議事進行：委員長 説明：事務局
資料8に基づき説明。

【意見等】

特になし。

(8) 観光振興に係る意見交換について

委員：不動尻のミツマタが咲くシーズンは多くの人で賑わうため駐車場が少ない。

トイレも1つしかなく足りないと感じる。

また、女性用のトイレが汚いとの苦情を受けたりトイレットペーパーがなくなっていたりすることもある。

トイレの数を増やしたほうが良いのでは。

事務局：3月から4月は登山客も多く、駐車場が満車になることも把握している。

仮設トイレを増設し対応したい。

また、トイレの清掃なども観光客の増加にあわせて対応したい。

委員：谷太郎川の川沿い道が崩れている。

観光ボランティアの年齢層も高く、危険なため案内をやめてしまった経緯もある。
綺麗に整備すれば雰囲気良くなると思う。

事務局：その場所については自然環境保全センターの管理地でもある。

観光地としてポテンシャルが高い地域であると認識している。

自然環境保全センターにこの件を報告させていただく。

委員：食ブランドの関係でフードバトルをやっていたと思うがどうなっているのか。

事務局：神奈川フードバトルはグルメフェスタという名前に変わった。

一昨年のコロナ前に事業が終了した。

委員：モンベルフレンドフェアはやめてしまったのか。

事務局：コロナ禍なので中止にしているが今年度は開催する予定で考えている。

委員：アウトドアコンテンツの促進で、グランピング施設があったら良いと思う。

グランピングをやる人が増えており、実際、伊豆や山梨のほうへ行っている人もいて、その人たちが七沢などにくるのではないかと。

温泉地と組み合わせると若い子育て層には良い施設になると思う。

事務局：キャンプ場やグランピングを誘致したい気持ちはある。民間事業者による開設の可能性を探っている状態である。

キャンプ場をつくるとなれば、いろいろな問題もでてくる。

温泉地であれば、旅館との調整も必要になってくるので、簡単にはいかない部分もある。

ひとりキャンプも流行っているし、グランピングも人気があることも承知している。
協力していただける企業など、いろいろな情報にアンテナを張りながら考えていきたい。

委員：OECフードの推進で、期間限定メニューが好きな人がたくさんいる。
OECフードを市内飲食店で限定メニューを販売したらどうか。
また、OECフードのアンバサダーがレシピなどをSNSで配信すると、市民が手に取りやすいものになるのでは。

オブザーバー：昨年度、事業者とOECフードを作っている方とホテル関係者とのマッチングを行った。

コロナ禍で市民を集めての開催ができなかった。

市民と一緒にレシピを考え、集まって試食していただく機会を設けていきたい。
また、デイキャンプを行い、OECフードを活用したキャンプ飯を作るような事業も実施予定である。

委員：ホテル業界は、お客さんも8割程度戻ってきている。

コロナ禍では4割程度であった。

コロナ禍の影響で閉店したお店もある。

以前は飲食店などが載っているマップがあったと思うが更新しているのか。

オブザーバー：観光協会では協会員を中心とした「るるぶ厚木」の特別版を作成している。
観光案内所では飲食店に限らず、コンビニなどの情報も含めた形で情報提供している。

委員：以前開催していた、アウトドアショーケースの再開はあるのか。

事務局：今年度の下半期にアウトドアをテーマとしたATSUGI OUTDOOR STYLEの開催を予定している。

委員：広域連携について、相模原や清川・宮ヶ瀬などとの連携はどうなっているか。

事務局：広域連携については重点を置いている。

エンドユーザー目線でみると行政界は無いに等しい。

スケールメリットを出す意味からも、ほかの近隣自治体と連携を進めていきたいと考えている。

いま、大山をテーマに厚木・伊勢原・秦野と連携を進めている。

また、宮ヶ瀬湖をテーマに愛川・清川加えた5市町村との連携をしている。

それぞれの観光資源を組み合わせた観光ツアーなども行っている。

委員：バス業界から見ると、お客さんの戻りは7割程度である。

町田だと観光地があり土日になると乗降人数が増えている。

厚木市の乗降人数が増えているのは、部活動が始まっていることが影響している。

以前はテレビで放映されるとバスが乗り切れない人がでることもあったが、最近はそのようなこともあまり見られなくなった。

核になるような観光地やPRが足りないように感じる。

事務局：神奈川県第4の観光地を目指して、広域に連携を取りながら誘致活動やPR活動を行っていきたい。

七沢温泉や飯山温泉など核となるものは存在する。

どう発信していくかが、行政として、まだまだ足りないところではないかと感じた。

まだまだ良い観光地であることがPRできていない。

いろいろなご意見をいただいて、できることがないか模索していきたい。

委員長：東南アジアの方と話をすると観光地としてストーリーがあるとその場所に行きたくなる。

観光地はすでにあるので、どうストーリー立てて説明して発信していくかが重要である。

委員長：先ほど観光ボランティアガイドの高齢化が進んでいるとの話があった。

松蔭大学の学生が貢献できることがあれば、ご相談をいただきたい。

学生も、地域で学ぶ機会を得ることができるので、協力できるような機会を模索していきたい。

私は、国連世界観光機関と関わりがあり、観光倫理を監督しなければならない立場であるので、地域の観光地に対して、様々なイベント、観光行政やホテル等に対し観光倫理的導入ができていくか、また新型コロナウイルスの国際標準の感染対策ができていくかなど、国外から来る観光客に対し安心感を与えるような認証制度をもっているのが良ければ積極的にチャレンジしてほしい。

パンフレットなどに多言語化が必要な場合は、協力できることがあると思いますのでご相談いただきたい。

4 その他

オブザーバー：厚木を温泉のある観光地としてアピールする愛称を募集している。

厚木イコール七沢、飯山という観光地を連想させるようなものを作りたいので周知をお願いしたい。

事務局：次の推進委員会は2月を予定しています。

5 閉 会